



6

EPILOGUE

おわりに

MAKER'S
STREET

内田 晃

北九州市立大学
地域創生学群・教授（副学長）
八幡東田未来共創会議 座長



日本の近代産業発祥の地であり、100年以上にわたってものづくりの発展を支えてきた八幡東田地区の「未来ビジョン」が策定された事は今後100年のまちづくりを進める上で大きな一歩だと言えます。クルマから解放されたウォークブルで居心地の良い、そして魅力的な都市空間が形成され、ここに集う人々が生き生きとした都市ライフを満喫する。ビジョンに示された様々なアイデアの実践を契機として、その取り組みが北九州市全体に広がり波及していくことを期待します。一方で既存の土地利用マスタープランが作られてから既に30年以上が経過しています。社会情勢の変化に対応した新たなマスタープランを策定する事で、本ビジョンがより実効性の高いものになるでしょう。

出口 敦

東京大学大学院
新領域創成科学研究科・教授（副学長）
八幡東田未来共創会議 顧問



八幡東田地区は、日本の近代化を支えた製鉄所の歴史を背景に、その製鉄所跡地において新たな都市再生を目指す重要なエリアです。全体120haの広大な地区の中心に位置する約50haのスペースワールド駅周辺では、アウトレットを含むショッピングモールや博物館の整備が進み、来訪人口の増加が見られています。

しかし、公園を中心としたレクリエーション空間の充実による若者や家族連れなどの長時間滞在人口の増加、さらに集合住宅の整備を通じた夜間人口の増加など、本エリアに多様な人口を取り込むことが今後の重要課題です。「拠点」と呼ぶに相応しいエリアとなるためには、都市公園「東田大通り」の再整備に留まらず、地区全体のマスタープランの見直しを進め、昼夜を問わず活気ある地域づくりを推進することが求められています。

本ビジョン策定を契機とした取組みが公・民・学連携による都市再生のモデルとなることを願っています。

南條 史生

N&A 代表、アーツ前橋特別館長
北九州未来創造芸術祭2021総合プロデューサー
八幡東田未来共創会議 顧問



アートには未来を拓く力があります。そして地球規模で深刻化する環境・社会・経済の様々な課題解決に向けては、未来を構想するアーティスト、そして志を持って未来に立ち向かう人々が協働する場が必要であり、その器となる街をつくるにはアート、それを支えるテクノロジーそして都市デザインが重要な要素であると思います。

八幡東田地区は、日本産業革命発祥の地としての高度な産業技術集積に加え、文化施設群と連携する商業・娯楽施設と複合により文化・芸術の発展にも寄与する街となっており、まさにアートとテクノロジーが融合する未来共創都市として理にかなった場所と言えます。

このビジョンを指針として、創造性、多様性に富む人々が集まり、躍動するクリエイティブシティへ進化していくことを大いに期待しています。

小林 敏樹

北九州市立大学
地域創生学群 教授

八幡東田未来共創会議専門委員



今回、八幡東田エリアの今後のまちづくりの指針となる未来ビジョンが策定されたことは、このエリアの将来にとって大きな一歩といえます。ただし、未来ビジョンはつくって終わりではありません。未来ビジョンに描かれたまちに向けて、エリア内の企業、就業者、住民、そして来街者らが自分事として捉え、今後様々な取り組みを行っていくことが求められます。まずは、公共空間での継続したプレイスメイキングなどを通して、少しずつ地域の価値を向上させながら、先進的かつ持続可能なまちを創造していきましょう。

長 聡子

西日本工業大学
デザイン学部建築学科 准教授

八幡東田未来共創会議専門委員



未来ビジョン策定のプロセスは、多様な方々による大規模ワークショップやアクションを先行した社会実験など、チャレンジと試行錯誤の連続でした。その姿こそ“アクションベースド・ビジョン”を体現していたと言えます。

この動きをより一層拡大・深化させることで、ビジョンを具現化することができると思います。そのためには、推進体制であるエリアプラットフォームが要になります。活動する人も来街者も働く人も、この地で生き活きと過ごすことのできる未来の実現に向け、多様な志民を巻き込みながらアクションを積み重ねていきましょう。

牧 敦司

認定NPO法人日本都市計画家協会
常務理事
㈱醇建築まちづくり研究所 代表



八幡東田未来共創会議専門委員

八幡東田地区の「未来共創ビジョン」は、様々なワークショップや社会実験を踏まえて策定された志民の手によるまちづくりの指針です。本ビジョンで掲げられたメーカーズストリート、パブリックアートやストリートガーデンなどのアクションの実践を通じて、さらに多くの志民・企業のみなさんの主体的な参加や公民連携が進むと共に、このような未来志向の取り組みが日本の近代産業発祥の地である本地区の歴史的な価値と融合し、先進的で生き活きとした都市空間、魅力ある都市景観の創出につながることを期待しています。

片田江 由佳

認定NPO法人日本都市計画家協会
会員
MINGLE design lab 代表



八幡東田未来共創会議専門委員

本ビジョンの策定に携わる中で、八幡東田には、挑戦を重ねてきた歴史があり、新しい価値を生み出し続ける「メーカーズスピリット」が根付いていることを実感しました。成功もあれば想定通りにいかないこともある。その試行錯誤こそが財産であり、結果として、失敗を許容し挑戦を続ける基盤がこのまちには築かれていると思います。策定の過程で多様な人々が未来を紡ぎ合う場ができたこともまた、新たな財産といえます。このビジョンを契機に、さらなる挑戦が生まれることを期待しています。シビックプライドを胸に、小さな一歩から未来をはじめてみましょう。

田坂 逸郎

地域価値共創ター・センター長

八幡東田未来共創ビジョン
ワークショップ・ファシリテーター

「共」と「創」は矛盾する、と表現工学の郡司ペギオ幸夫氏（理学博士）は述べています。そして、そのうえで、こう呼びかけています。〈等質・連続な「共」から出発して「創」に向かおうとするのではなく、異質・不連続なものに相まみえながら、そこから生まれ出た「創」を「共」に連続させていこう〉と。あの2回の大規模ワークショップこそ、“異質”と“不連続”のただ中にありました。あの場から生まれたビジョンであれば必ずや、エリアに活力と価値をもたらすことができるのではないのでしょうか。大いに期待しています。



YAWATA FUTURE COWORKS



未来を創る、世界を変える

<https://yahata-higashida.com>

